

第 441 回集談会

1. 日時：2013 年 4 月 15 日（月）16:30～
2. 場所：2 A 講義棟（中央棟 2 階）
3. 座長：微生物学教室・教授 久下周佐先生（内線 3801）
4. 演者：臨床感染症学教室・教授 藤村 茂先生（内線 2280）
5. 演題：経口投与 *Lactobacillus gasseri* OLL2716 の gastric mucus layer への侵入と抗 *H. pylori* 活性について
6. 要旨：新興感染症の原因微生物に数えられる *Helicobacter pylori* は、胃炎、胃・十二指腸潰瘍などの消化管感染症を引き起こす。また、胃癌の発症にも関連しており、世界的に注目される細菌である。一般に先進国における感染率は 10–20% であり、途上国では 70–80% と高い。日本人は 50 歳以上が 60–80% であり 40 歳代以下が 10–30% と低値を示す。このように年齢により 2 分される国は報告がなく、その感染様式の違いが指摘されているが詳細は不明である。*H. pylori* の感染時期は 2–5 歳以下であると考えられており、この時期に感染を抑えることは予防医学的に重要である。最近の感染症領域では、抗菌化学療法以外に Probiotics の有用性が期待されているが、その効果を示す成績は極めて乏しい。我々は、MEIJI と共同で *Lactobacillus* 属を用いた抗 *H. pylori* 効果を検討し、ヨーグルトの経口摂取による感染予防等臨床への応用を考えている。本講演では、*Lactobacillus gasseri* OLL2716(LG21)株の胃内環境中における動態および抗 *H. pylori* 活性のメカニズムに関し、我々が行った病理学的・分子生物学的検討による知見を紹介する。